

条件節・理由節・時点節の連続性について — チノ語悠楽方言を例として—*

林 範彦

1 はじめに

日本語の以下の文の解釈は実際には連続的であると考えられる。

- (1) a. 昨日駅で電車に乗ろうとしたら、同級生に会った。
b. 昨日駅で電車に乗ろうとしたとき、同級生に会った。

(1) 中にみられる太字の形式のもつ機能に注目しよう。「たら」は通常条件節を標示する機能を持ち、「とき」は従属節内の事態の成立時点を標示する機能をもつと分析される。しかし、(1a)の「たら」は条件節を標示するというよりも意味的には(1b)のように従属節内の事態成立時点の標示と重なっていると考えられる。

このような日本語における従属節標識の機能的重複 (functional overlapping) の問題についてはすでに多くの日本語学の研究者によって論じられてきた。

中国雲南省で話されるチノ語悠楽方言¹にも類似の問題を指摘することができる。

* 本稿はイエテボリ大学 (University of Gothenburg, Gothenburg, Sweden) で行われた第 14 回ヒマラヤ言語学シンポジウム (Himalayan Languages Symposium, 21-23, August, 2008) での口頭発表を加筆・修正したものである。会議で質問された Scott DeLancey 教授をはじめ、多くの研究者からご意見を頂いた。本稿の草稿については稲垣和也氏からも重要な指摘を頂いた。記して心からの謝意を表したい。

¹ チノ語は中国雲南省景洪市に主に居住するチノ族の話す言語である。2000 年の人口統計によるとチノ族の人口は中国全土では 20,899 人である。そのうち景洪市には 19,250 人が暮らしている。しかし、実際にチノ語を流暢に話せる人口は不明である。チノ族は周辺諸民族に比して母語の保有率は高いと考えられるが (戴 [主編] 2007)、すでに漢語雲南方言しか話せないチノ族も少なくない。チノ語の話者総人口は多く見積もって 1 万数千人程度にとどまると考えられる。

チノ語は大きく悠楽方言と補遠方言の 2 つに分かれる。話者人口の約 9 割が悠楽方言を話すとされる (蓋 1986)。

以下に、筆者の分析によるチノ語悠楽方言の音素目録を示す (林 2006, 2009)。

チノ語の音素目録は、[子音] /p, ph, t, th, k, kh; ts, tsh, tʃ, tʃh, ɕ, tɕh; m, m̥, n, n̥, ŋ, ŋ̊; l, l̥; f, v, s, z, ʃ, r, ɕ, j, x, ɣ; (w) /, [母音] /i, e, ø, ε, œ, a, ə, ɔ, ɤ, o, u, u/ である。声調素は /55, 44, 33, 35, 42/ である。音節構造は頭子音 + 介音 + 主母音 + 末子音/声調で構成される。またチノ語では m, m̥, n, n̥ が成節鼻音 (syllabic nasal) となりうる。

なお、本文中で同じ形態素ながら調値が異なることがある。これらは環境によって声調が音韻論的に交替する場合である。その場合、本文中で引用する際、声調を表記しないことがある。

更に、チノ語文法の言語類型論的特徴としては以下のとおりである。基本語順は SOV で、形容詞は名詞を後ろから修飾し、関係節は名詞を前から修飾する。チノ語は膠着性の高い言語であり、動詞が述部となる際、動詞語根を中心に多くの接尾辞類・接頭辞類が添加した動詞複合形式 (verbal complex) を構成する場合がある。

以下の (2) の例を見てみよう。

(2) a. $mi^{55} \int o^{55} n^{44} mi^{55} tsho^{55} kha^{35} -x\alpha^{42} / -\eta u^{33} -x\alpha^{42} / =la^{55} / -vu^{44} / * -mj\alpha^{42}$,

明日 太陽 照る-COND / -COP-COND / =PAPH / -RES / -SEQ

$\eta\alpha^{42} ji^{33} t\int ho^{55} tshi^{55} -me^{44}$.

1SG.NOM 水 洗う-FUT

「もし明日晴れたら、水浴びをするつもりだ。」

b. $\epsilon\epsilon^{33} xun^{35} -mj\alpha^{42} / -x\alpha^{42} / * -\eta u^{55} -vu^{55} / * =la^{55} / * -m\chi^{33} -t\alpha u^{35}$, $z\alpha^{55} ku^{55} t\int\alpha^{33} +j\alpha^{33}$.

結婚する-SEQ / -COND / -COP-RES / =PAPH / -TIM

子ども 産む + よい

「結婚してはじめて、子どもを産んでもよい。」

(2) の従属節は主節の命題が成立する条件を表している。(2a) では $-x\alpha^{42}$, $-\eta u^{33} -x\alpha^{42}$, $=la^{55}$, $-vu^{55}$ の助詞の生起が可能である。一方で (2b) は同じように条件節であると考えられるにもかかわらず、 $=la^{55}$ [PAPH] の生起は許されず、(2a) では生起不可能であった $-mj\alpha^{42}$ [SEQ] がここでは容認される。

(3) は「時点」を表す従属節の例である。

(3) $mi^{55} \int o^{55} n^{44} \eta\alpha^{42} l\alpha^{44} =la^{55} / -x\alpha^{42} / -vu^{44} / -m\chi^{33} -t\alpha u^{35} / * -mj\alpha^{42}$

明日 1SG.NOM 来る=PAPH / -COND / -RES / -TIM / -SEQ

$kh\chi^{33} ma^{55} z\alpha^{35} +ja^{42} -n\alpha^{44}$.

3PL.NOM 歩く + しまう-SFP

「私が明日来たときには、彼らはもう行ってしまう。」

(3) の従属節は主節の命題が成立する時点を表している。ここでは $=la^{55}$, $-x\alpha^{42}$, $-vu^{44}$, $-m\chi^{33} -t\alpha u^{35}$ といった複数の標識の生起が可能である。

(2) や (3) の例に見られる従属節標識の生起を表面的に取り扱えば、複数の従属節標識が所与の用法において生起しうると考えられる。しかし、そのままでは言語形式と機能の関係性が非常に複雑である。

本稿は筆者の採集したチノ語悠楽方言² の従属節標識 $-vu^{55}$, $-x\alpha^{42}$, $=la^{55}$, $-m\chi^{33} -t\alpha u^{35}$, $-mj\alpha^{42}$ の含まれるデータをもとに、³ 条件節・理由節・時点節の連続性について試論を展開するものである。

² 本稿で取り扱うデータは筆者が中国雲南省景洪市で 2003 年から 2009 年にかけて断続的に行った現地調査に基づいている。主にデータを提供してくださった王阿珍氏 (1980 年生、女性)、玉納氏 (1950 年頃生、女性) に心から感謝申し上げます。なお、2003 年および 2005 年の調査は日本学術振興会科学研究費補助金 (特別研究員奨励費) の援助を、2004 年および 2007 年、2008 年の調査は日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 S) 「チベット文化圏における言語基層の解明—チベット・ビルマ系未記述言語の調査とシャンシュン語の解読—」(研究代表者 長野泰彦) の援助を、2009 年の調査は日本学術振興会科学研究費補助金 (若手研究 B) 「チノ語の記述調査と言語接触・言語類型論から見た東南アジア諸語研究」(研究代表者 林 範彦) の援助を受けている。この場を借りて感謝申し上げます。

³ 上記以外にも、チノ語悠楽方言には逆接「だが、しかし」を表す従属節標識 $=\epsilon^{55} -n\alpha^{44}$ がある。しかし、本稿では議論の都合上扱わない。逆接の従属節標識を含めた考察は別稿に譲ることとする。

2 先行研究

筆者以外のチノ語の研究としては主なものに蓋 (1986) と蔣 (2010) がある。ここではそれぞれについて順次略説しておこう。

蓋 (1986: 74–76) ではチノ語悠楽方言の「偏正聯詞」について記述されている。「偏正聯詞」とは要約すると「主従の関係を見いだせる 2 つの文をつなぐ」機能をもつ。蓋 (1986) では $vu^{44}zə^{44}$ 「なぜなら～から」、 $khə^{42}lo^{33}ju^{44}$ 「それゆえに」、 $xə^{44}lə^{33}$ 「もし～なら」、 $nə^{33}lə^{33}mə^{44}kuə^{42}$ 「たとえ～ても」、 $ɲə^{44}ε nə^{33}lə^{33}$ 「しかしながら」、 $khə^{42}lo^{44}lo^{44}$ 「けっして～ない」などが例示されているが、具体的な機能の差違などについてはほとんど記述されていない。

蔣 (2010: 256–273) ではチノ語悠楽方言の複文構造について記述されている。そこでは複文の関係として「並列関係」「承接関係」「遞進関係」「解説関係」「選択関係」「転折関係」「条件関係」「仮説関係」「因果関係」「目的関係」の 10 種を挙げている。各「関係」内では更に内的分類も行なっている。このうち本稿の内容と関連するのは「承接関係」「解説関係」「条件関係」「仮説関係」「因果関係」の 5 種であろう。しかし、蔣 (2010) で記述している下位方言 (パヤー下位方言) が筆者の研究している下位方言 (パカー下位方言) と異なるためか、本稿で取り上げる形式と対応するのは、 $mj\Lambda^{33}$ 「… のあとで」(承接関係)、 $\dots mj\Lambda^{33} \dots s\Lambda^{44}$ 「… してはじめて…」(条件関係)、 $\dots vu^{31}ky^{33}$ (可能仮説関係)、 $\dots vu^{31}$ (因果関係) の 4 種であると考えられる。特に興味深い点としては $mj\Lambda^{33}$ が承接関係と条件関係の両方を、 vu^{31} が仮説関係と因果関係の両方の標示に用いられる点や、蔣 (2010: 270) に記述されるように vu^{31} が「原因」だけでなく「時点」をも標示しうることであろう。これは本稿の内容とも関係するが、蔣 (2010) では各例文に挙げられる形式を列挙する以上の更なる分析を施していない。

本稿の記述と分析は蓋 (1986) と蔣 (2010) の記述する下位方言とは異なるが、上記の研究を補完する位置にあると言える。

3 観察と記述 — 典型的用法と周辺の用法 —

本節では、チノ語悠楽方言における $-vu^{55}$ 、 $=la^{55}$ 、 $-xə^{42}$ 、 $-mjə^{42}$ 、 $-m\gamma^{33}-təu^{35}$ の各従属節標識のデータをもとに、その典型的用法と周辺の用法について観察と記述を試みる。

3.1 $-vu^{55}$

まず、 $-vu^{55}$ の用法について観察する。 $-vu^{55}$ は典型的には (4) のように、主節の事態が生じる理由を表す。

- (4) a. $tshi^{55} tsə^{33}-m\gamma^{35} ju^{55}-vu^{55}$, $a^{55} vu^{44} a^{55} va^{44} ji^{55} the^{35}-m\gamma^{55}$.

薬 食べる-NML COP-RES ふらふらする 寝る-PAST

「薬を飲んだので、ぐっすり眠った。」

- b. $a^{55}pu^{44}a^{55}mo^{44}a^{55}kr\alpha^{44}\eta u^{55}-vu^{55}$, $z\alpha^{55}ku^{55}a^{33}pjo^{55}ma^{55}-jo^{44}+tu^{33}-m\gamma^{35}$.
 両親 貧しい COP-RES 子ども 本 NEG-よい+読む-PAST
 「(彼/彼女の)両親は貧しかったので、(彼/彼女は)学校に行かなかった。」

- vu^{55} は理由の標識として用いられることが最も多いが、以下のように様々な用法を見ることも可能である。例えば、(5)のように主節の条件を表すことができる。

- (5) a. $n\alpha^{42}khun^{33}mi\eta^{33}le^{55}-vu^{55}$, $lao^{33}si^{55}a^{55}fu^{55}the^{35}+le^{44}$.
 2SG.NOM 昆明 行く-RES 先生 前に 伝える+行く
 「昆明に行くなら、前もって先生に言いに行きなさい。」
- b. $\eta\alpha^{42}kai^{33}tsi^{55}le^{44}-n\alpha^{44}$. $\zeta a^{55}lo^{44}phjen^{35}ji^{33}\eta u^{55}-vu^{55}$, $la^{55}th\alpha^{42}ju^{33}=\epsilon^{44}$.
 1SG.NOM 市場 行く-SFP もの 安い COP-RES 多い 買う=POSS
 「私は市場に行く。ものが安かったら、たくさん買ってくるよ。」

このほか、- vu^{55} は事態の成立時点を表現できる(6)。

- (6) a. $faj^{35}\zeta ao^{44}phe^{44}-vu^{44}$, $th\alpha u^{33}t\gamma\eta^{55}tai^{35}-vu^{55}$. $\eta\alpha^{33}=a^{55}=l\alpha^{44}a^{33}pu^{55}lu^{55}$.
 ゴムの木 切る-RES ヘッドランプ 着る-RES 1SG.OBL=PART=も 朦朧とする
 「私がゴムの樹液を採るとき、ヘッドランプを頭につけるから、私もフラフラする。」
- b. $jo^{55}lo^{33}\zeta e^{33}ko^{55}-vu^{55}$, $ji^{55}ji^{55}t\theta^{55}-kh\alpha^{44}-m\gamma^{44}$. $n\alpha^{42}t\theta^{55}=\epsilon^{55}$
 トモク節 過ぎる-RES 昔 たった今-する-PAST 2SG.NOM いる=POSS
 $t\theta h\gamma^{33}-a^{44}$.
 似ている-PART
 「トモク節が過ぎる頃、あなたもここにいるでしょうね。」

更に、- vu^{55} は(7)のように事態の継起を表すことも少なくない。継起を表す場合、主節と従属節の間の意味的な連関は強くない。両者の主語は異なりうる。

- (7) a. $lao^{33}toj^{55}+s\alpha^{35}-vu^{55}$, $mi^{33}tha^{55}ma^{33}-x\alpha^{55}-m\gamma^{42}-a^{44}-n\alpha^{44}$.
 農作業する+おわる-RES 雨 NEG-降る-PAST-PFT-SFP
 「(私が畑で)農作業し終えたあと、雨がやんだ。」
- b. $fao^{33}waj^{33}\zeta i^{44}t\gamma^{55}-t\epsilon^{44}-vu^{55}$, $t\gamma^{55}-me^{55}$.
 ワンさん これより-見る-RES より-泣く
 「ワンさんがこれを見て、泣いた(=ワンさんがこれを見れば見るほど、泣いた)。」
- c. $ji^{55}n^{44}ji^{55}n^{44}tjen^{35}xua^{35}ta^{33}+lu^{35}-vu^{44}$, $a^{55}n\alpha^{55}jo^{33}\zeta i^{55}lai^{35}-a^{44}-n\alpha^{44}$
 昨日 一昨日 電話 かける+来る-RES 自分(3) 携帯電話 壊れる-PFT-SFP
 $m^{33}-me^{35}$.
 話す-PAST
 「(彼女が)昨日一昨日に電話をかけてきて、(彼女の)携帯電話が壊れたと言っていた。」

以上を整理すると、 $-vu^{55}$ は典型的用法として主節の事態が生じる理由を表すほか、周辺的には条件・事態の成立時点・継起を表す用法が存在することがわかる。⁴

3.2 $=la^{55}$

次に $=la^{55}$ の用法を観察しよう。チノ語悠楽方言では $=la^{55}$ は倚辞と考えられ、先行文脈の内容を言い換える、あるいは先行文脈の要点および特徴が後に続く性質を持つ。(8)を見られたい。

(8) a. $\zeta i^{44} =la^{55} jin^{33} nan^{33} p\gamma^{33} jo^{33}$.

これ=PAPH 雲南白薬

「これは雲南白薬(薬の名前)である。」

b. $jin^{55} wen^{44} ljen^{33} p\gamma^{55} =la^{55} kha^{55} -ko^{55} ko^{33} \zeta a^{55} si^{55} \zeta hij^{33} tu^{33} -m\gamma^{44} faj^{35} +tu^{44} -\eta\gamma^{42}$.

新聞聯播=PAPH 何-CL 国 物事 出る-REL 放送する+出る-RCF

「新聞聯播⁵ではどこの国の事件でも放送されるだろう。」

c. $\zeta i^{44} thi^{33} -mjo^{55} \eta^{33} -mjo^{55} =la^{55} kh\gamma^{33} ji^{33} -a^{44} . a^{55} \eta\gamma^{44} tai^{35} =la^{55} mo^{55} -su^{55} jo^{35} -\eta\gamma^{42}$.

これ1-CL 2-CL=PAPH 大丈夫である-PART 後代=PAPH NEG-知る-RCF

「(チノ語は)この1,2年くらいは大丈夫だろう。後の世代の人達は(チノ語を)理解しないだろうよ。」

(8)における $=la^{55}$ は名詞(相当)句に後接していた。一方で、 $=la^{55}$ は動詞複合形式にも名詞化を伴うことなく後続でき、(9)のように主節の条件を表現しうる。

(9) a. $pe^{33} t\theta^{55} fa^{55} -\gamma^{55} =la^{55} , a^{55} k\theta u^{55} khju^{55} +ku^{55} =\epsilon^{44}$.

かばん 担ぐ-PART=PAPH もの 盗む+取る=POSS

「もしあなたがかばんを担いだら、ものを盗まれるかもしれない。」

⁴ 本文では、 $-vu^{55}$ が現れる理由節では主節が過去時である例を主に取り上げた。実際には主節が非過去の例も可能である。

i) $tshi^{55} ts\gamma^{35} -vu^{55} , ji^{33} -\eta u^{55} -n\epsilon^{44}$.

薬 食べる-RES 寝る-AUX-SFP

「薬を飲んだので、眠たい。」

ii) $a^{55} pu^{44} a^{55} mo^{44} a^{55} kr\gamma^{44} \eta u^{55} -vu^{55} , a^{33} pjo^{55} mo^{55} -tu^{33} -n\epsilon^{44}$.

父 母 貧しい COP-RES 本 NEG-読む-SFP

「(彼は)両親が貧しかったので、学校に行かない。」

また本文では、 $-vu^{55}$ が現れる継起節では主節が過去時である例を主に取り上げた。これも実際には主節が非過去の例も可能である。

iii) $lao^{33} toj^{55} -vu^{55} mi^{33} tha^{55} mo^{33} -xo^{55} =\epsilon^{44}$.

農作業する-RES 雨 NEG-降る=POSS

「農作業した後、雨は降らないだろう。」

⁵ 中国中央電視台で毎日午後7時より一斉に放送されるテレビニュースの名前。

b. a⁵⁵ kəu⁵⁵ mɔ⁵⁵ -ku³³ -ɔ³³ =la⁵⁵, thu⁵⁵ pru³³ =ɛ⁴⁴ tu³⁵ +ja⁴⁴ -ɔ⁴⁴ -nɔ⁴².

もの NEG-取る-PART=PAPH 直接=POSS 出る + 行く-PART-RCF

「(スーパーマーケットで)何も買わなかったら、そのまま直接(出口から)出て行って
もよいんだよ。」

また、(10)のように、=la⁵⁵ は主節の理由を表現しうる。

(10) a. khɿ⁴² ta³⁵ jue³³ tu³³ -tɔ⁴⁴ =la⁵⁵, khɿ⁴² jɿj⁵⁵ jɿ⁴⁴ tɛ⁵⁵ +suɿ⁵⁵ -khju⁴² -a⁴⁴.

3SG.NOM 大学 読む-EXP=PAPH 3SG.NOM 英語 見る + 知る-AUX-PART

「彼/彼女は大学を卒業したので、英語が読める。」

b. jɿ⁵⁵ n⁴⁴ khɿ⁴² faj³⁵ tɕao⁴⁴ phɛ³³ -mɛ³⁵ =la⁵⁵, khɿ⁴² mɛ⁵⁵ -nɔɛ⁴⁴.

昨日 3SG.NOM ゴムの木 切る-PAST=PAPH 3SG.NOM 疲れている-SFP

「彼/彼女はゴムの樹液を取りに行ったので、疲れている。」

主節の理由を表現する際に、複数の標識が同時に生起する場合がある。(11)のように =la⁵⁵ は 3.1 で見た -vu³³ としばしば共起する。このような例は、コピュラ *ɲur*³³ に付加される用法が確認されている。

(11) a. ʃi⁴⁴ pjen⁵⁵ tɕaj⁵⁵ ɲur³³ -vu³³ =la⁵⁵ lo³³ xɔ³⁵ -nɔ⁴².

これ 辺境 COP-RES=PAPH 遅れている-RCF

「ここは辺境だから、遅れている。」

b. a⁵⁵ khɿ⁵⁵ a⁵⁵ fe⁴² ɲur³³ -vu³³ =la⁵⁵.

川 近い COP-RES=PAPH

「(私の家が涼しいのは、)川に近いからだ。」

更に =la⁵⁵ は (12) のように、従属節の事態の時点を表現することも多い。

(12) mi⁵⁵ ʃɔ⁵⁵ n⁴⁴ nɔ⁴² lo³³ =la⁵⁵, khɿ⁴² tɕij³³ xɔj⁴⁴ =a⁵⁵ je³⁵ +ja⁴² -nɔɛ⁴⁴.

明日 2SG.NOM 来る=PAPH 3SG.NOM 景洪 (PLN)=VA 行く + 行く-SFP

「あなたが(ここに)明日くるときには、彼/彼女は景洪に行ってしまっただろう。」

加えて、(13)のように、=la⁵⁵ が事態の継起関係を表しうる。

(13) jue³³ sɿŋ⁵⁵ -ma⁵⁵ a³³ pjo⁵⁵ tu³³ +sɔ³⁵ =la⁵⁵, mi³³ ko³⁵ +le³⁵ -mɛ³⁵.

学生-PL 本 読む + おわる=PAPH 遊ぶ + 行く-PAST

「学生たちが本を読み終わったあと(= 学校が終わったあと)、外に遊びに行った。」

以上を整理すると、=la⁵⁵ には非常に多くの用法が見られる。=la⁵⁵ は名詞句にも動詞複合形式にも後続できる。名詞句に後続する際は先行名詞の言い換え、および要点・特徴を後に述べさせる性質がある。また、動詞複合形式に後続する際は主節の条件を表すことが多い。しかし、特に動詞複合形式に後続する際には様々な用法が見られ、主節の理由、事態の成立時点、そして継起をも表すことがある。

3.3 -xɔ⁴²

次に -xɔ⁴² の用法を見ていく。-xɔ⁴² は典型的には条件節を標示する。(14)に見るように、コピュラ ηu⁵⁵ と共起する例⁶が多い。

- (14) a. jɔ⁵⁵-a⁵⁵ ηu³³-xɔ⁴², ηɔ⁴² tɛ⁴²-na⁴² no³³+lo⁵⁵=ɛ⁴⁴.
 よい-PART COP-COND 1SG.NOM とても-早いまた + 来る=POSS
 「可能であれば、私はとても早く戻ってくるつもりです。」
 b. a⁵⁵pu⁴⁴ tɛ³³phu⁵⁵ tɔ³³ ηu³³-xɔ⁴², phø⁵⁵-a⁴⁴.
 父 酒 飲む COP-COND 吐く-PFT
 「お父さんが酒を飲んだら、吐いてしまう。」

一方、-xɔ⁴² は時にコピュラと共起せず、(15)のように、直接動詞複合形式に後接することもある。

- (15) a. ja⁵⁵ni⁴⁴ tɛ³³phu⁵⁵ ɕi⁵⁵-pu⁴⁴-thɔ⁴² tɔ³³-xɔ⁴², mi⁵⁵ʃɔ⁵⁵ni⁴⁴ ma⁵⁵-to⁵⁵thɔ³³-khju⁴²=ɛ⁴⁴.
 今日 酒 これ-くらい-多い飲む-COND 明日 NEG-起きる-AUX=POSS
 「今日酒をこれほどたくさん飲んだら、明日は起きられないだろう。」
 b. tshɣ⁵⁵mjo⁵⁵ mo⁵⁵-tɔ³⁵+le⁴⁴-xɔ⁴⁴, nɛ³³mjo⁵⁵ mo⁵⁵-tɔ³³-khju⁵⁵-xa⁴⁴.
 今年 NEG-切り倒す + 行く-COND 来年 NEG-切り倒す-AUX-PFT
 「もし今年(木を)切り倒しに行かなかつたら、来年は切り倒せなくなっているだろう。」

他方、(16)のように、-xɔ⁴² はしばしば事態が起きる時点を表現しうる。⁷

- (16) a. tʃhu⁵⁵khɛ⁵⁵ ηu³³-xɔ⁴², khi⁵⁵ mo⁵⁵-tshu⁵⁵-a⁵⁵, ʃɔ³³khi⁵⁵ a³³pja⁴².
 冬 COP-COND 靴 NEG-着る-PART 足 乾いている
 「冬であれば、靴を履かないと、足が乾ききってしまうよ。」
 b. mi⁵⁵ʃɔ⁵⁵n⁴⁴ nɔ⁴² lo³³-xɔ⁴², khɣ⁴² tɕij³³xoŋ⁴⁴=a⁵⁵ je³⁵+ja⁴²-nɔɛ⁴⁴.
 明日 2SG.NOM 来る-COND 3SG.NOM 景洪(PLN)=VA 行く + 行く-SFP
 「明日(ここに)来るときには、彼/彼女は景洪に行ってしまうだろう。」

以上を整理すると、-xɔ⁴² は条件を標示する機能を中心に、事態の成立時点を示すこともあるとまとめられる。⁸

⁶ コピュラと共起する際には ηu³³-xɔ⁵⁵ のように、声調交替を起こすことが多い。

⁷ (16)は -xɔ⁴² が後続している節は条件節のようにも見える。しかし、ここでは名詞(「冬」)に後続していたり、「明日ここに来ると/来たなら/来るなら」と読み替えることが難しいことを考え合わせると、条件節ではなく、時点を表していると考えたほうがよいだろう。

⁸ 本文では従属節が非過去の例を中心に挙げた。実際には過去の標識が生起する例も存在する。以下に例を挙げる。

3.4 -mjə⁴²

続いて、-mjə⁴² の用法を見てみよう。-mjə⁴² は、(17) の例に見るように、従属節標識として継起を表す。⁹

- (17) a. *mi³³tha⁵⁵xo⁴²-mjə⁴², tɕɿ⁵⁵-tshø⁴².*
 雨 降る-SEQ より-冷たい
 「雨が降って、より冷たくなった。」
- b. *khɿ⁴²ŋɔ³⁵na³³kho⁴²fu⁵⁵-mjə⁴², ŋɔ³⁵khu³³+tho³⁵-mɿ⁵⁵.*
 3SG.NOM 1SG.OBL 耳 引っ張る-SEQ 1SG.OBL 呼ぶ + 起きる-PAST
 「彼/彼女は私の耳を引っ張って、起こした。」

-mjə⁴² は継起の用法において、(18) のように、文中で数回生起することができる。

- (18) a. *ɕe³³phu⁵⁵tə³³+mo³⁵-mjə⁴², ta³³-mjə⁴², fo³³ɕi⁵⁵m³³-phi³⁵-mjə⁴²,*
 酒 飲む + 狂っている-SEQ 打つ-SEQ 携帯電話 CAUS-なくす-SEQ
mɔ⁵⁵-ta³³+le⁴⁴-xa⁴⁴.
 NEG-打つ + 行く-PFT
 「(かつて、彼女が) 酔っ払って、(麻雀を) 打って、携帯電話をなくして (以来、麻雀を) 打たなくなった。」
- b. *lɔ³³=jə⁵⁵no³³-lo⁵⁵-mjə⁴², fao³³xoŋ³⁵-ma⁵⁵=e⁵⁵ tso³³no³³-lo⁵⁵-mjə⁴²,*
 あれ=よりまた-来る-SEQ シャオホン (PSN)-PL=POSS 家 また-来る-SEQ
va³³tso⁵⁵phu⁵⁵, ŋɔ⁴²ɕao⁵⁵tao⁵⁵su⁵⁵+so³³-mjə⁴², ji⁵⁵the⁴²+ja³³m³⁵.
 豚の餌 煮る 1SG.NOM ゴムの樹液を取る三角刀 研ぐ+おわる-SEQ 眠る + 行く 言う
 「私があそこから帰ってきて、シャオホンの家から戻ってきて、豚の餌を煮て、ゴムの樹液を取る三角刀を研ぎおえて、それから寝た。」

i) *khɿ⁴²ji⁵⁵ŋ⁴⁴lo⁵⁵po⁴⁴tshi⁵⁵+le⁴⁴-mɛ⁴⁴ŋu³³-xo⁴²ja⁵⁵ŋ⁴⁴mɔ⁵⁵-le⁴⁴=e⁴⁴-po⁴².*
 3SG.NOM 昨日 茶 摘む + 行く-PAST COP-COND 今日 NEG-行く=POSS-RCF
 「彼は昨日茶を摘みに行ったのなら、今日は行かないでしょうね。」

⁹ -mjə⁴² は継起を表していても、否定接頭辞 *ma-* ~ *mɔ-* と共起できないという特徴がある。

i) *khɿ⁴²a⁵⁵ko⁴⁴so³⁵-mjə⁴²/ *-∅ to³⁵+ja³³-mɿ⁴⁴.*
 3SG.NOM ドア 閉める-SEQ 出る + 行く-PAST
 「彼/彼女はドアを閉めて出ていった。」

ii) *khɿ⁴²a⁵⁵ko⁴⁴ma⁵⁵-so³⁵*-mjə⁴²/ -∅ to³⁵+ja³³-mɿ⁴⁴.*
 3SG.NOM ドア NEG-閉める-SEQ 出る + 行く-PAST
 「彼/彼女はドアを閉めずに出ていった。」

(i) と (ii) は従属節の部分が肯定であるか、否定であるかの違いがある。(i) のように肯定の場合は -mjə⁴² が生起可能であるが、(ii) のように否定の場合は生起できない。

(19)¹⁰ に見るように、*-mjə*⁴² は主節の条件を表すこともある。しかし、これは典型的な用法ではないと考えられる。

(19) a. *khɣ*⁴⁴ *a*⁵⁵ *ke*⁵⁵ *tʃhao*³⁵ *-mjə*⁴², *tso*⁵⁵ *+jə*⁵⁵.

あれ おかず 揚げる-SEQ 食べる + よい

「あのおかずは揚げれば食べられる。」

b. *khɣ*³⁵ *no*⁵⁵ *-mjə*⁴², *zə*⁵⁵ *su*⁵⁵ *jə*⁴⁴ = *ɛ*⁴⁴.

3SG.OBL 尋ねる-SEQ やっと知る=POSS

「(我々が) 彼/彼女に (そのことを) 尋ねたら、やっとわかった。」

以上を整理すると、*-mjə*⁴² は継起を標示するほか、一部の例で条件も標示することがあるとまとめられよう。

3.5 *-mɣ*³³-*təu*³⁵

最後に、*-mɣ*³³-*təu*³⁵ について観察する。*-mɣ*³³-*təu*³⁵ は関係節標識の *-mɣ* と「とき」を表す名詞 *-təu*³⁵ の複合形式であると分析される。¹¹ 従属節の事態の成立時点を標示する。

(20) a. *ŋə*⁴² *tso*³³ *to*³³ *+le*³³ *-(mɣ*⁴⁴*)-təu*³⁵, *tjen*³⁵ *xua*³⁵ *mu*³³ *+lu*³³ *-mɣ*³⁵.

1SG.NOM 家 出る + 行く-(REL)-TIM 電話 鳴る + 来る-PAST

「私が出たとき、電話が鳴った。」

b. *ŋə*⁴² *tfoj*⁵⁵ *fue*⁴⁴ *tu*³³ *-mɣ*³³ *-təu*³⁵, *si*⁵⁵ *mao*⁴⁴ *thi*³³ *la*⁵⁵ *le*³³ *-to*⁴⁴.

1SG.NOM 中学校 読む-REL-TIM 思茅 (PLN) 一度 行く-EXP

「中学校にいたころ、思茅に一度行ったことがある。」

(21)¹² のように、*-təu*³⁵ は名詞句に後接しうる。

(21) *pao*⁵⁵ *tʃə*⁵⁵ *ŋa*⁵⁵ *vu*⁵⁵ *noj*³³ *fao*³⁵ *-təu*⁴⁴ *thoj*³³ *fo*³⁵ *ŋu*³³ *-mɛ*³⁵.

パオチャ (PSN) 1PL 農業学校 -TIM 級友 COP-PAST

「パオチャが農業学校にいたころ、(彼は) 級友であった。」

*-mɣ*³³-*təu*³⁵ は上述の通り、基本的に従属節の事態の成立時点を標示し、他の用法への拡張は現時点では観察できない。

¹⁰ (19) に掲げる例はいずれも前提として「揚げる以外の方法はない」「誰に尋ねてもわからない」ということが含まれると考えられる。

¹¹ (20) のように、時点を表す場合 *-mɣ*³³ は随意的に生起すると考えられる。この *-mɣ*³³ は関係節標識 *-mɣ* であると考えられ、一般に主名詞を修飾する際には義務的に生起するため、その生起状況の差違は注意を要する。ただし、本稿では *-mɣ*³³-*təu*³⁵ と表記を統一しておく。

¹² この例はパカー下位方言に近いルトゥ下位方言話者の自然発話から引用した。

3.6 小結 — チノ語悠楽方言における従属節標識の用法 —

上述したチノ語悠楽方言における従属節標識の用法を、典型的なものと同期的なものに分類して整理すると以下の表1のようになる。

表1 チノ語悠楽方言の従属節標識の用法

従属節標識	典型的な用法	同期的な用法
-vu ⁵⁵	理由	条件, 時点, 継起
=la ⁵⁵	言い換え	理由, 条件, 継起, 時点
-xo ⁴²	条件	時点
-mjə ⁴²	継起	条件
-mɣ ³³ -təu ³⁵	時点	——

表1に見るように、-mɣ³³-təu³⁵を除いた他の従属節標識は典型的な用法のほかに同期的な用法を有することがわかる。そして典型的な用法・同期的な用法全体を見れば、用法間の機能的重複も見いだせる。この点について次節で分析を試みたい。

4 分析 — 意味的連続性 —

本節では、従属節標識が交換可能である例を中心に分析し、チノ語悠楽方言において「条件」「理由」「時点」の意味がいかなる形で連続的であるのかを論じていきたい。

4.1 条件

まずは「条件」を表す標識について考える。(22)に見るように、主節に対する条件節は主に-xo⁴², -vu⁵⁵ および =la⁵⁵ で標示される。主節・従属節両方の事態が未来に成立するのであれば、上記3つの従属節標識のいずれも容認可能である。

- (22) a. mi⁵⁵ fɔ⁵⁵ ŋ⁴⁴ mi³³ tha⁵⁵ xo³³ ŋur³³ -xo⁴² / -vu³³ =la⁵⁵, ŋɔ⁴² mo⁵⁵ -le⁴⁴ =ε⁴⁴.
 明日 雨 降る COP-COND / -RES=PAPH 1SG.NOM NEG-行く=POSS
- b. mi⁵⁵ fɔ⁵⁵ ŋ⁴⁴ mi³³ tha⁵⁵ xo³³ +lu³³ -vu⁵⁵, ŋɔ⁴² mo⁵⁵ -le⁴⁴ =ε⁴⁴.
 明日 雨 降る + 来る-RES 1SG.NOM NEG-行く=POSS
 「もし明日雨が降れば、私は行かない。」

更に、主節・従属節間に論理的関係が存在するなら、(23)に見るように、-xo⁴² 同様、-vu⁵⁵ あるいは =la⁵⁵ によって従属節が標示されうる。ただし注意すべきは、この場合従属節が主節の十分条件であらねばならない。

- (23) a. *khɣ⁴² tfoŋ⁵⁵ko⁴⁴+tshə³³zo⁵⁵ŋu³³-xɔ⁴²/ŋu⁵⁵-vu⁵⁵/ŋu³³-vu³³=la⁵⁵*, *khɣ⁴²*
 3SG.NOM 中国 + 人々 COP-COND / COP-RES / COP-RES=PAPH 3SG.NOM
a⁵⁵xɔ⁴⁴mi⁴⁴pja³³-khju⁵⁵=ɛ⁴⁴.

漢語 話す-AUX=POSS

「彼/彼女が漢族なら、漢語を話せるだろう。」

- b. *ja⁵⁵ŋ⁴⁴vu³³xao³⁵ŋu³³-xɔ⁴²/ŋu⁵⁵-vu⁵⁵=la⁵⁵*, *mi⁵⁵fɔ⁵⁵ŋ⁴⁴lu³³xao³⁵ŋu³³-nə⁴⁴*.

今日 5日 COP-COND / COP-RES / =PAPH 明日 6日 COP-SFP

「今日が(今月の)5日なら、明日は6日だ。」

従属節が主節の必要条件であれば、(24)¹³に見るように、-xɔ⁴²同様、-mjə⁴²が従属節標識として生起しうる。このとき、=la⁵⁵は生起できない。

- (24) a. *ɬɛ³³xun³⁵-mjə⁴²/-xɔ⁴²/*(ŋu⁵⁵)-vu⁵⁵/*=la⁵⁵/*-mɣ³³-təu³⁵*, *zo⁵⁵ku⁵⁵tfo³³+jo³³*.

結婚する-SEQ / -COND / -COP-RES / =PAPH / -TIM 子ども 産む + よい

「結婚してはじめて、子どもを産むことができる。」 (= 2b)

- b. *ji³³jen⁴²le⁵⁵-mjə⁴²/-xɔ⁴²/*(ŋu⁵⁵)-vu⁵⁵/*=la⁵⁵/*-mɣ³³-təu³⁵*, *ja⁵⁵+mɣ⁵⁵-khju⁴²*.

病院 行く-SEQ / -COND / -COP-RES / =PAPH / -TIM 治す + よい-AUX

「病院に行ってはじめて、(あなたの病気は) 治りうる。」

他方、(25)のように、反事実条件文である場合、*ŋu³³-xɔ⁴²*あるいは*ŋu³³-xɔ⁵⁵=la⁵⁵*が容認される。他の従属節標識は用いられない。

- (25) a. *ŋɔ⁴² nə³⁵ŋu³³-xɔ⁴²/ŋu³³-xɔ⁵⁵=la⁵⁵/*ŋu⁵⁵-vu⁵⁵/*ŋu³³-vu³³=la⁵⁵*,

1SG.NOM 2SG.OBL COP-COND / COP-COND=PAPH / COP-RES / COP-RES=PAPH

ŋɔ⁴² khɣ³³-lo³³mo⁵⁵-khə³³-ɬhɛ⁴².

1SG.NOM あれ-ようにNEG-する-AUX

「もし私があなたなら、そのようにはしないだろう。」

- b. *ŋɔ⁴² ŋa³³zo⁵⁵ŋu³³-xɔ⁴²/ŋu³³-xɔ⁵⁵=la⁵⁵/*ŋu⁵⁵-vu⁵⁵/*ŋu³³-vu³³=la⁵⁵*,

1SG.NOM 鳥 COP-COND / COP-COND=PAPH / COP-RES / COP-RES=PAPH

pɣ³³ɬij⁵⁵pre³⁵+le⁵⁵=ɛ⁴⁴.

北京 飛ぶ + 行く=POSS

「もし私が鳥ならば、北京まで飛んでいくのに。」

¹³ 以下の例に見るように、-mjə⁴²のみが容認されうる例もわずかながら存在する。

i) *khɣ⁴⁴a⁵⁵ke⁵⁵tʃhao³⁵-mjə⁴²/*-xɔ⁴²/*=la⁵⁵/*-vu⁵⁵tsɔ⁵⁵+jo⁵⁵*. (= 19a)

あれ おかず 揚げる-SEQ / -COND / =PAPH / -RES 食べる + よい

「あのおかずは揚げれば、食べられる。」 (= あのおかずは揚げてはじめて食べられる)

このような例は今後も検討が必要である。

以上から、条件のタイプにより従属節標識の分布は表 2 のようにまとめられる。-xɔ⁴² (もしくは -xɔ⁴² を含む形式) はいかなる条件節でも生起可能である。

表 2 「条件」を表す従属節標識の機能的重複

必要条件	論理関係 (十分条件)	その他
//////////////////////////////////// -mjɔ ⁴²	//////////////////////////////////// -vu ⁵⁵ , =la ⁵⁵	//////////////////////////////////// -xɔ ⁴²

4.2 理由

次に「理由」を表す標識について分析する。上述したように、主節に対する理由節は -vu⁵⁵ または =la⁵⁵ によって標示されうる。従属節が明らかに主節の理由と解釈される¹⁴ のであれば、(26) のようにいずれの標識でも容認される。

- (26) a. khɣ⁴² ta³⁵ fue³³ tu³³-tɔ⁴⁴-vu⁵⁵/-vu⁵⁵=la⁵⁵/=la⁵⁵,
 3SG.NOM 大学 読む-EXP-RES / -RES=PAPH / =PAPH
 khɣ⁴² jɪŋ⁵⁵ jɪ⁴⁴ tɛ⁵⁵+suw⁵⁵-khju⁴²-a⁴⁴.
 3SG.NOM 英語 見る + 知る-AUX-PART
 「彼/彼女は大学を卒業したので、英語を読むことができる。」
- b. jɪ⁵⁵ n̄⁴⁴ khɣ⁴² faŋ³⁵ tɕao⁴⁴ phe³³-mɛ³⁵ ŋwɯ⁵⁵-vu⁵⁵/ŋwɯ⁵⁵-vu⁵⁵=la⁵⁵/=la⁵⁵,
 昨日 3SG.NOM ゴムの木 切る-PAST-COP-RES / -COP-RES=PAPH / =PAPH
 khɣ⁴² mɛ⁵⁵-nœ⁴⁴.
 3SG.NOM 疲れた-SFP
 「彼/彼女は昨日ゴムの樹液を採ったので、疲れている。」

他方、(27) のように、=la⁵⁵ は単独で用いられないことがある。

¹⁴ この理由の明確性はチノ語話者の共有知識に依存する部分が多い。例えば、(26a) では「大学生は学校の教科として英語をかならず修得する」という知識が共有されていなければならない(あるいは、話者自身がそのことを確信していなければならない)。

(27) a. $kh\gamma^{42} a^{55}x\omega^{44} \eta\mu^{55}-vu^{55}/\eta\mu^{33}-vu^{33}=la^{55}/*\eta\mu^{33}=la^{55}/*la^{55}$,
 3SG.NOM 漢族 COP-RES / COP-RES=PAPH / COP=PAPH / =PAPH
 $kh\gamma^{42} a^{55}x\omega^{44} mi^{55} pja^{33}-khju^{42}$.
 3SG.NOM 漢語 話す-AUX

「彼/彼女は漢族なので、漢語を話すことができる。」

b. $pa^{55}kha^{42} a^{33}x\gamma^{55} \eta\mu^{55}-vu^{55}/\eta\mu^{33}-vu^{33}=la^{55}/*\eta\mu^{33}=la^{55}/*la^{55}$,
 パカー (PLN) 遠い COP-RES / COP-RES=PAPH / COP=PAPH / =PAPH
 $tʃh\theta^{44} t\gamma^{33} \mu^{55} +le^{44}-j\omega^{42}$.
 車 座る + 行く-OBLIG

「パカーは(ここから)遠いので、(私たちは)車で行かなければならない。」

c. $kh\gamma^{35} z\omega^{55}ku^{55} \eta^{55}-lai^{35} tʃ\theta^{55}-vu^{55}(=la^{55})/*la^{55}/*x\omega^{42}$,
 3SG.OBL 子ども 2-CL.OBL 生きている-RES(=PAPH) / =PAPH / -COND
 $kh\gamma^{42} lao^{33}toj^{55}-j\omega^{42}$.
 3SG.NOM 働く-OBLIG

「彼/彼女は子どもが2人いるので、働かなければならない。」

(27)で $=la^{55}$ が容認されない理由は厳密な研究を要する。ただし、現時点では主節と従属節の意味的な関係(ここでは「節間関係」と略称する)が明らかでないかに関与しているのではないかと考えられる。もし節間関係が従属節標識を用いなくても「理由」であると明確に解釈されるなら、 $=la^{55}$ を用いることができる。しかし一方で、従属節が理由を表すことを明示するためには、 $-vu^{55}$ あるいは $-vu^{55}=la^{55}$ がより好ましいであろう。

表3に「理由」を表す従属節標識の分布を整理する。

表3 「理由」を表す従属節標識の機能的重複

節間関係が明確	節間関係が不明確
////////////////////////////////////	
$=la^{55}$	
////////////////////////////////////	
	$-vu^{55}, -vu^{55}=la^{55}$

4.3 時点

続いて「時点」を表す標識について分析する。従属節および主節がともに未来に起こると考えられるならば、(28)に見るように、 $-mj\omega^{42}$ 以外の従属節標識が生起しうる。¹⁵

¹⁵ 個人的な習慣が表現される場合、たとえ従属節・主節ともに未来に起こらなくても、 $(\eta\mu^{33})-x\omega^{42}$ が用いられうる。

(28) a. $mi^{55} \int o^{55} n^{44} n\theta^{42}$ $l\theta^{33} -m\chi^{33} -t\theta u^{35} / -x\theta^{42} / =la^{55} / -vu^{44} / *-mj\theta^{42}$,

明日 2SG.NOM 来る-TIM / -COND / =PAPH / -RES / -SEQ

$kh\chi^{42}$ $t\epsilon ij^{33} xoj^{44} =a^{55} je^{35} +ja^{42} -n\alpha^{44}$.

3SG.NOM 景洪=VA 行く + 行く-SFP

「あなたが明日来るころには、彼/彼女はおそらく景洪に行ってしまったているだろう。」

b. $n\epsilon^{33} mj\theta^{55} kh\chi^{42}$ $l\theta^{44} -m\chi^{33} -t\theta u^{35} / -x\theta^{42} / =la^{55} / -vu^{44} / *-mj\theta^{42}$,

来年 3SG.NOM 来る-TIM / -COND / =PAPH / -RES / -SEQ

$\eta\theta^{42}$ $tshu^{55} tfoj^{55} tu^{33} -k\theta^{35} -n\alpha^{44}$.

1SG.NOM 中学校 読む-PROG-SFP

「彼/彼女が来年来るころには、私は中学校に行っているだろう。」

もし従属節の事態が過去に起こったものであるなら、 $-vu^{55}$ および $-vu^{33} =la^{55}$ は (29), (30) のように $-m\chi^{33} -t\theta u^{35}$ とともに容認されうる。¹⁶

(29) a. $ji^{55} ji^{55} pa^{55} kha^{42}$ $t\int\theta^{33} -m\chi^{33} -t\theta u^{35} / -vu^{33} =la^{55} / *-x\theta^{42} / *=la^{55} / *-mj\theta^{42}$,

昔 パカー (PLN) いる-TIM / -RES=PAPH / -COND / =PAPH / -SEQ

$\eta i^{55} -t\int h\theta^{55} -t\int h\theta^{55}$ $l\theta^{55} po^{44} tshi^{55} -n\alpha^{44}$.

日-ごと-ごと.RDP 茶葉 摘む-SFP

b. $ji^{55} ji^{55} pa^{55} kha^{42}$ $t\int\theta^{55} -vu^{55}$, $\eta i^{55} -t\int h\theta^{55} -t\int h\theta^{55}$ $l\theta^{55} po^{44} tshi^{55} -n\alpha^{44}$.

昔 パカー (PLN) いる-RES 日-ごと-ごと.RDP 茶葉 摘む-SFP

「昔、私がパカー村にいたとき、毎日茶葉を摘んでいた。」

(30) a. $ji^{55} n^{44} \eta\theta^{42}$ $tso^{33} t\int\theta^{33} -m\chi^{33} -t\theta u^{35} / -vu^{33} =la^{55} / *-x\theta^{42} / *=la^{55} / *-mj\theta^{42}$,

昨日 1SG.NOM 家 いる-TIM / -RES=PAPH / -COND / =PAPH / -SEQ

$kh\chi^{42}$ $tjen^{35} xua^{35} ta^{33} +la^{33} -m\chi^{35}$.

3SG.NOM 電話 かける + 来る-PAST

i) $a^{55} xua^{44} -ma^{55}$ $thi^{55} ma^{55} ma^{55} t\theta^{33} +ts\theta u^{35} -a^{55}$ $\eta u^{33} -x\theta^{42}$,

アホア (PLN)-PL たくさん.RDP 飲む + 一緒に-PART COP-COND

$phi^{33} \epsilon u^{33} thi^{55} l\theta^{44} -t\theta^{33} -a^{44}$.

ビール 少しずつ-飲む-PART

「アホアと彼の友達が生ビールを飲むときは、(彼女も) 少し飲む。」

「条件」表現のように見えるが、筆者の協力者によるとこの例は「時点」表現の一種であるようである。

¹⁶ 主節・従属節ともに過去に起こっていたとしても、以下の例のように、 $=la^{55}$ は容認されることもある。この点はさらなる分析を要する。

i) $a^{55} san^{44}$ $tjen^{35} xua^{35} ta^{33} +la^{33} -m\chi^{33} -t\theta u^{35} / -m\chi^{33} -t\theta u^{35} =la^{55} / =la^{55} / -vu^{55} / *-x\theta^{42} / *-mj\theta^{42}$,

アサン (PSN) 電話 電話 (v.) + 来る-TIM / -TIM=PAPH / =PAPH / -RES / -COND / -SEQ

$kh\chi^{42}$ $m\theta^{33} -n^{55} -t\theta^{55} -a^{55}$.

3SG.NOM NEG-いる-EXP-PART

「アサンが生電話に電話をかけた時、彼/彼女は(ここに)いなかった。」

b. $ji^{55}n^{44} \eta\phi^{42}$ $tso^{33}t\phi^{55}-vu^{55}$, $kh\chi^{42}$ $tjen^{35}xua^{35}ta^{33}+la^{33}-m\chi^{35}$.
 昨日 1SG.NOM 家 いる-RES 3SG.NOM 電話 かける + 来る-PAST
 「私が昨日家にいたとき、彼/彼女は私に電話をかけてきた。」

たとえ、従属節の事態が過去に生じたものであっても、 $-m\chi^{33}-t\phi^{35}$ のみが容認されうる例も存在する。従属節標識が時点(「～したとき」)ではなく、時間の幅(「～の間」)を表示するものであれば、 $-m\chi^{33}-t\phi^{35}$ は(31)に見るように、時間の幅を標示する唯一の候補となる。

- (31) a. $a^{55}pu^{55} mo^{33}-lo^{55}-su^{33}-m\chi^{33}-t\phi^{35} / *-x\phi^{42} / *=la^{55} / *-vu^{55} / *-mj\phi^{42}$,
 父 NEG-来る-まだ-TIM / -COND / =PAPH / -RES / -SEQ
 $kh\chi^{42} ji^{55}-t\phi^{44}-su^{44}-a^{44}$.
 3SG.NOM 寝る-EXP-まだ-PFT
 「父が帰ってくるまで(=父がまだ来ない間)、彼/彼女は寝ていた。」
- b. $a^{55}mo^{44} x\phi^{55} tsh\phi^{55} ph\phi^{33}+le^{33}-m\chi^{33}-t\phi^{35} / *-x\phi^{42} / *=la^{55} / *-vu^{55} / *-mj\phi^{42}$,
 母 野菜 買う + 行く-TIM / -COND / =PAPH / -RES / -SEQ
 $z\phi^{55}ku^{55}-ma^{55} \eta i^{33}ko^{55}-k\phi^{55}$.
 子ども-PL 遊ぶ-PROG
 「母が野菜を買いに行っている間、子供たちは遊んでいた。」
- c. $ji^{55}n^{44} \eta\phi^{42}$ $a^{55}k\epsilon^{55} tshi^{33}-m\chi^{33}-t\phi^{35} / *-x\phi^{42} / *=la^{55} / *-vu^{55} / *-mj\phi^{42}$,
 昨日 1SG.NOM 服 洗う-TIM / -COND / =PAPH / -RES / -SEQ
 $mi^{33}tha^{55} x\phi^{33}-m\chi^{35}$.
 雨 降る-PAST
 「私が昨日服を洗っている間、雨が降った。」

表4に「時点」を表す従属節標識の分布を整理する。「時点」を表すあらゆる場面で生起できるのは $-m\chi^{33}-t\phi^{35}$ である。このほか、過去(あるいは「叙実法」と呼び変えられるかもしれない)および未来(あるいは「叙想法」と呼び変えられるかもしれない)の時点の場合は、 $-vu^{55}$ が、未来の時点のときは $-x\phi^{42}$, $=la^{55}$ も生起が可能である。

表4 「時点」を表す従属節標識の機能的重複

過去(叙実法)	未来(叙想法)	その他
////////////////////////////////////		
$-x\phi^{42}$, $=la^{55}$		
////////////////////////////////////		
$-vu^{55}$		
////////////////////////////////////		
$-m\chi^{33}-t\phi^{35}$		

4.4 継起

最後に「継起」を表す標識の分布について考察を加えよう。従属節が継起の意味をもち、動詞複合形式に $sɔ^{35}$ 「終わる」が含まれているときには、(32)に見るように、 $-vu^{55}$ 、 $=la^{55}$ および $-mjə^{42}$ が従属節標識として生起しうる。¹⁷

- (32) a. $\etaɔ^{42}$ $xə^{55} mɛ^{55} tʃha^{55} + sɔ^{35} -vu^{55}$, $lɔ^{55} -fe^{55} + nu^{33} + lɔ^{33} -nə^{44}$.
 1SG.NOM 米 煮る + おわる-RES ずっと-走る + 戻る + 来る-SFP
 「私が米を煮終わったあと、(彼女が) 走って戻ってきた。」
- b. $khɤ^{42}$ $ji^{55} n̄^{44} a^{55} mɛ^{55} tso^{55} + sɔ^{35} -mjə^{42} / -vu^{55}$, $xə^{55} tshø^{55} pho^{33} + le^{33} -mɛ^{35}$.
 3SG.NOM 昨日 食事 食べる + おわる-SEQ / -RES 野菜 買う + 行く-PAST
 「昨日、彼/彼女は食事を食べ終わったあと、野菜を買いに行った。」
- c. $fue^{33} sɤj^{55} -ma^{55} a^{33} pjo^{55} tu^{33} + sɔ^{35} -mjə^{42} / -vu^{55} / -vu^{55} = la^{55} / = la^{55} / * -mɤ^{33} -təu^{35} / * -xɔ^{42}$,
 学生-PL 本 読む + おわる-SEQ / -RES / -RES=PAPH / =PAPH / -TIM / -COND
 $n̄i^{33} ko^{35} + le^{35} -mɛ^{35}$.
 遊ぶ + 行く-PAST
 「学生たちは学校が終わった後 (= 本を読み終わった後)、あそびに出かけた。」 (= 13)
- d. $ʃɔ^{33} pho^{55} n̄^{44} \etaɔ^{42}$ $lɔ^{55} po^{44} tshi^{55} + sɔ^{35} -mjə^{42} / -vu^{55} / -vu^{55} = la^{55} / = la^{55} / * -mɤ^{33} -təu^{35}$,
 明後日 1SG.NOM 茶葉 摘む + おわる-SEQ / -RES / -RES=PAPH / =PAPH / -TIM
 $khɤ^{35}$ $tso^{33} le^{33} -mɛ^{35}$.
 3SG.OBL 家 行く-FUT
 「明後日、私が茶葉を積み終わったら、彼の家に行くつもりだ。」

さらに、動詞複合形式が動詞 $sɔ^{35}$ 「終わる」を含んでいなかったら、 $-mjə^{42}$ のみが容認される。それは従属節と主節の継起関係を $-mjə^{42}$ が明示できるからである。

¹⁷ しかし、たとえ $sɔ^{35}$ 「終わる」が動詞複合形式に現れていても、以下の (i) のように、 $-mjə^{42}$ のみが容認可能となる例もある。(32) と (i) の違いについては今後の検討課題としたい。

- i) a. $ji^{55} n̄^{44} \etaɔ^{42}$ $tshi^{55} + sɔ^{35} -mjə^{42} / * -xɔ^{42} / * -vu^{55} / * -vu^{55} = la^{55} / * = la^{55} / * -mɤ^{33} -təu^{35}$,
 昨日 1SG.NOM 洗う + おわる-SEQ / -COND / -RES / -RES=PAPH / =PAPH / -TIM
 $a^{55} mɛ^{55} tso^{33} -mɛ^{35}$.
 食事 食べる-PAST
 「昨日、私は体を洗ったあと、食事を食べた。」
- b. $ja^{55} n̄^{44} faj^{55} tɕao^{44} phe^{33} + sɔ^{35} -mjə^{42} / * -xɔ^{42} / * -vu^{55} / * -vu^{55} = la^{55} / * = la^{55} / * -mɤ^{33} -təu^{35}$,
 今朝 ゴムの木 切る + おわる-SEQ / -COND / -RES / -RES=PAPH / =PAPH / -TIM
 $no^{33} + pho^{33} + lɔ^{33} -mɤ^{35}$.
 また + 戻る + 来る-PAST
 「今朝、私はゴムの樹液を採ったあと、戻ってきた。」

- (33) a. $nə^{42}$ $a^{55}mɛ^{55}tso^{35}-mjə^{42}/*-vu^{55}/*-xɔ^{42}/*=la^{55}/*-mɣ^{33}-təu^{35}$, $le^{35}=ɛ^{55}-tu^{42}$.
 2SG.NOM 食事 食べる-SEQ / -RES / -COND / =PAPH / -TIM 行く=POSS-HORT
 「食事をしてから出ていきなさい。」
- b. $ji^{33}mjə^{55}khy^{42}$ $ɕij^{33}xoj^{44}je^{35}+ja^{42}-mjə^{42}/*-vu^{55}/*-xɔ^{42}/*=la^{55}/*-mɣ^{33}-təu^{35}$,
 昨年 3SG.NOM 景洪 行く + 行く-SEQ / -RES / -COND / =PAPH / -TIM
 $ɕɛ^{33}xun^{35}-mɛ^{35}$.
 結婚する-PAST
 「去年、彼/彼女が景洪に行って、結婚した。」

まとめると、表 5 のようになる。節間関係が明らかに継起であると解釈されうる¹⁸ ならば、 $-vu^{55}$ あるいは $=la^{55}$ が用いられる。さもなければ、主節の事態が従属節の事態よりも後に生じることを明示するために $-mjə^{42}$ が用いられなければならない。

表 5 「継起」を表す従属節標識の機能的重複

節間関係が明確	その他
////////////////////////////////////	
$-vu^{55}$, $=la^{55}$	
////////////////////////////////////	
	$-mjə^{42}$

4.5 小結 — 意味的連続性 —

ここで本節の内容を整理したい。 $-vu^{55}$, $-xɔ^{42}$, $-mɣ^{33}-təu^{35}$, $-mjə^{42}$ の各従属節標識は相互に交換可能な例を持っている。しかし、各用法から翻って考察を加えると、様々な条件によって、生起可能な場合と不可能な場合とに分けることができることも判明した。また同時に $=la^{55}$ は他の従属節標識の後にも生起することができ、基本的に節間関係の変更に影響を与えないと考えられる。その点から $=la^{55}$ は他の従属節標識とは別のレベルの機能を持った標識とみなす必要があるかと思われる。

3 節と本節の内容をふまえて 5 つの従属節標識の機能を整理すると表 6 にまとめられる。

各従属節標識の機能的重複を考慮に入れると、チノ語悠楽方言では「理由」「時点」「条件」「継起」の節の順序で意味的に連続していると推論できよう。¹⁹

¹⁸ 4.2 でも用いた「節間関係の明確性」に関しては言語データ内部での明示的な証明が難しい。現時点では意味論・語用論的見地からの解釈にとどまっている。今後はより明示的な手法による分析を進めていきたい。

¹⁹ もちろん、本節で試論を述べたように、「条件節」「時点節」内部では競合する従属節標識の分布条件が異なる。表 6 ではその点を捨象している。「条件節」「時点節」などの内的な分布条件を含めた上での意味的連続性については今後発展的に取り扱わなければならない。

表6 チノ語悠楽方言における従属節標識の意味的連続性

従属節標識	(言い換え)	理由	時点	条件	継起
-vu ⁵⁵		//////////		
-xɔ ⁴²			//////////	
-mɣ ³³ -təu ³⁵			//////		
-mjə ⁴²				//////////
(=la ⁵⁵	//////////)

(‘////////’ は典型的な用法を、‘.....’ はある条件に限定された周辺の用法を示している)

5 おわりに

チノ語悠楽方言の従属節標識および従属節の意味的連続性に関する本稿の主張は以下の (34) のようにまとめられよう。

- (34) a. 各従属節標識が典型的な用法を有する。しかし、他の従属節標識と意味的なオーバーラップを見せる、周辺の用法も併せもつ。
 b. 主節と従属節の間の意味的な関係は、理由か条件、条件か時点²⁰ などのように捉えられる。
 c. =la⁵⁵ は他の従属節標識にはない独自の特徴をもつ。すなわち、他の従属節標識に後接することができ、基本的に主節と従属節の論理関係を保持する機能がある(節間関係の変更に関与しない)。
 d. 従属節標識の機能と分布から考えれば、「理由節」「時点節」「条件節」の順序で連続していると推定できる。²¹

以上は現時点の採集データをもとにした試論であり、今後に残された問題は多い。

Sweetser (1990) は発話は、content domain, epistemic domain, speech act domain の3つのdomain (領域) と関連付けられていると主張している。チノ語悠楽方言においても、典型的な用法と周辺の用法は Sweetser (1990) の提示する domain の観点から分析できる可能性がある。例えば、-mjə⁴² が継起の意味を表すときには、それを含む発話は content domain に関連付けら

²⁰ 条件表現と時点表現が同じ従属節標識で標示される言語も多い。日本語の「と」も条件と時点の両方を表しうる。タイ語では典型的には事態の成立時点を表す *phɔɔ* と *mûa* が条件を表すことも多いようである(田中 2006)。坪本 (1993) は日本語におけるこの問題を Sweetser (1990) の主張する認知領域の観点から分析している。

²¹ =la⁵⁵ がもっぱら持っている先行要素の言い換え機能や「継起節」との関連性については今後の分析が待たれるところである。また Dixon (2009) が節連結に関する類型論的な整理を行なっている。それによると、「継起節」「時点節」「条件節」は同じ「時間を表すタイプ」としてまとめられ、「理由節」はこれらとは異なる「因果関係を表すタイプ」に含めている。将来的にはこのような類型論的分析との関連性についてもさらなる検討が必要である。

れるが、他方、条件の意味を表すときには epistemic domain に関連付けられうる。今回の議論では、認知的解釈や語用論上の問題（特に節間関係の明示性などの問題）も「意味的連続性」という単線的尺度の上にプロットして記述したため、本来は多層的に論じる必要がある可能性もある。

チノ語悠楽方言の条件表現は様々な観点から詳しく検討されなければならない。漢語普通話では、従属節の主語の生起によって従属節が理由を表すのか、条件を表すのかが決定されたり（大河内 1967）、従属節の条件表現の類型が述語のアスペクチュアリティ、あるいは名詞句の定性の影響を受けたりする（下地 2006）。今後はチノ語悠楽方言の条件表現もこれらの現象とも関連させながら研究を進めていく必要があるだろう。

略号一覧

文頭の * は非文であることを示す。また ‘-’ は接辞類・助詞類の境界を、‘=’ は倚辞の境界を、‘+’ は語根の境界を表す。

AUX	助動詞	PFT	完了
CAUS	使役	PL	複数
CL	類別詞	PLN	地名
COND	条件	POSS	所有
COP	コピュラ	PROG	進行相
EXP	経験	PSN	人名
FUT	未来	RCF	確認
HORT	勧告	RDP	重複
NEG	否定	REL	関係節標識
NML	名詞化標識	RES	理由
NOM	主格	SEQ	継起
OBL	斜格	SFP	文終止助詞
OBLIG	義務・許可	SG	単数
PAPH	置換	TIM	時間節
PART	助詞	VA	=va
PAST	過去			

参考文献

- 戴慶厦 (Dai Qingxia)(主編). 2007. 《基諾族語言使用現狀及其演變》北京: 商務印書館.
- Dixon, R. M. W. 2009. The semantics of clause linking in typological perspective. In: R. M. W. Dixon and Alexandra Y. Aikhenvald (eds.), *The Semantics of Clause Linking: A Cross-Linguistic Typology*. pp. 1–55. Oxford: Oxford University Press.
- 蓋興之 (Gai Xingzhi). 1986. 《基諾語簡誌》北京: 民族出版社.

- 林範彦. 2006. 「チノ語悠楽方言」中山俊秀・江畑冬生(編)『文法を描く—フィールドワークに基づく諸言語の文法スケッチ—』pp. 243–270. 府中: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- . 2009. 『チノ語文法(悠楽方言)の記述研究』(神戸市外国語大学研究叢書 第43冊) 神戸: 神戸市外国語大学外国学研究所.
- 蒋光友(Jiang Guangyou). 2010. <<基諾語参考語法>> 北京: 中国社会科学出版社.
- 大河内康憲. 1967. 「複句における分句の接続関係」『中国語学』176. (大河内康憲. 1997. 『中国語の諸相』 pp. 86–106. 所収)
- 下地早智子. 2006. 「中国語の条件表現」益岡隆志(編), 『条件表現の対照』 pp. 83–98. 東京: くろしお出版.
- Sweetser, Eve E. 1990. *From Etymology to Pragmatics: Metaphorical and Cultural Aspects of Semantic Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 田中寛. 2006. 「タイ語の条件表現をめぐって」益岡隆志(編), 『条件表現の対照』 pp. 99–125. 東京: くろしお出版.
- 坪本篤朗. 1993. 「条件と時の連続性」益岡隆志(編), 『日本語の条件表現』 pp. 99–130. 東京: くろしお出版.